

DMR-UBZ1 の展開(10)

—BPODCH 受信(10)—

1. はじめに

前報(9)において前報(6)の考察において設定した対策が完了しましたので
DMR-UBZ1 による BPODCH の視聴の音質と PC による BPODCH の視聴の音質と
比較してみます。

2. BPODCH の視聴方法

前報(6)の方針は次のとおりです。

- ① DMR-UBZ1 の前のルーター子機に【iPurifier DC+ Red Barrel Cable】を適用
- ② ①のRed Barrel Cableにアモルメットコアを装着
- ③ CTUの後のルーター親機に【iPurifier DC+ Red Barrel Cable】を適用
- ④ ③のRed Barrel Cableにアモルメットコアを装着
- ⑤ DMR-UBZ1はルーター子機に直接接続しているので、ルーター子機にぶら下
っているBuffaloのオーディオグレードのスイッチングハブを介して接続
- ⑥ DMR-UBZ1に inputsするLANケーブルを、Buffaloのスイッチングハブに付属し
てきたLANケーブルからインフラノイズのLANリベラメンテに交換
- ⑦ DMR-UBZ1に inputsするLANケーブルのLAN入力端子付近にアモルメットコア
を装着
- ⑧ PCに inputsするLANケーブルのLAN入力端子付近にアモルメットコアを装着

DMR-UBZ1については、①から⑦までの対策が完了しています。

PCについては、①から④までの対策が追加されています。⑤は従来からこのルート
の配線を行っており、⑥も従来からLANリベラメンテを使用していました。今回は、
⑧のPCに inputsするLANケーブルのLAN入力端子付近にアモルメットコアの装着を
追加しました。

以上から、次の3ルートの比較を行います。

- 1) DMR-UBZ1のS/PDIFデジタル出力をDACU-500経由でSonica DACに inputs
- 2) PCのUSB出力をiPurifier2 (TypeB) 経由でSonica DACに inputs
PCはSSD使用のW10機を使用し、1)と同様192KHzにアップサンプリングして
Sonica DACに送り込みます。
- 3) PCのUSB出力をSWD-DA20に inputs
PCはSSD使用のW10機を使用し、1)と同様192KHzにアップサンプリングして
SWD-DA20に送り込みます。その際、Bulk Pet伝送の設定を行い、かつSWD-DA20

にはGPS-777から192KHzのクロックを入力します。SWD-DA20の電源はiPowerに替え、iPurifierDCとアモルメットを装着しています。USBケーブルもUSBリベラメンテにしています。

なお、PCとSonica DACにはPSI-2000を敷き、SWD-DA20を敷いています。

以上のように各ルートとも、これまでの成果を取り入れた上で、比較してみようとするものです。

3. BPODCH の視聴結果

上記3ルートの対策の結果、3ルートの差は著しく狭まってきており、ちょっと油断して聴いていると違いが分からなくなるほどです。

2)と3)はともにPC経由の再生で、DAC 違いですが、SWD-DA20 もクロック入力と BulkPet 伝送の効果に加えて、今回のルーターの電源対策が効いてこれまでにないレベルに達しています。その違いを敢えて述べますと、2)の Sonica DAC の方に静寂感があり、音の余韻までがしっかり聴こえてくる点で軍配が上がります。

では、1)の DMR-UBZ1 と2)の PC の比較はどうかというと、音の肌理は2)の方がクールで細かく、ポリフォニー音楽のように微妙なニュアンスを捉える向きにはむいている感じがします。一方、1)の DMR-UBZ1 の方は、2)に比べればウォームトーンで音に厚みが出ますので、大編成オーケストラの迫力に魅力があります。

4. まとめ

設定した対策の結果、DMR-UBZ1 による BPODCH の視聴の音質は PC による BPODCH の視聴の音質に近づき、若干の音質の違いは曲に応じて選択することが望ましいレベルになりました。

以上